

## 特別レポート

**100年に1度の暴落相場でも、一切含み損を抱えることなく、**

**毎日安定した利益をあげることが出来る売買ルールとは**

～ 決して明かされることのなかった**2つの概念**を初公開 ～

保田です。

このレポートでは現在起こっている未曾有の暴落相場でも、安定して収益を上げるために、非常に重要となる話をします。

このレポートでお話する内容は、これまで日本で誰一人として語っていないものであり、あなたのトレード収益に多大なる影響をもたらす話です。

もしあなたが、今のような100年に1度の暴落相場においても、安定して利益をあげたいということであれば、このレポートの内容を一語一句見逃さないように、慎重に読み進めてください。

**実は、9月末から起こった日本の証券市場最大規模となる暴落相場においても、私たちのファンドは、これまで同様、全く問題なく利益をあげること成功しています。**

もちろん、逆張り型のスイングトレードという意味では、10月24日の引け段階で14%ほどのドローダウンを受けていますが、それを補って余りあるほどの利益を、別のストラテジーで稼ぐことが出来ています。

そのストラテジーとは何かというと・・・

**1泊2日型の売買ルールです。**

私たちは運用する約2億8000万のうち、4分の1にあたる約6500万円をこの売買ルールで運用していますが・・・

**この1ヶ月間で30%強の利益を、1泊2日型の売買ルールで稼ぐことが出来ています。**

おそらくあなたもお気づきのことと思いますが、この2年ほど、日本の株式市場は、アメリカの動向に左右される傾向が、以前よりもさらに高まっています。

NYがあがれば翌日ギャップアップして始まり、NYが下がれば翌日ギャップダウンして始まる。しかも、その幅が、時には一晩でストップ高、ストップ安水準に行ってしまうほど、大きくなっているのです。

これは、何を意味するかというと・・・

大幅なギャップアップ、ギャップダウンが頻発することによって、1泊2日ストラテジーには、以前よりも遥かに大きな利益がもたらされているという事実です。

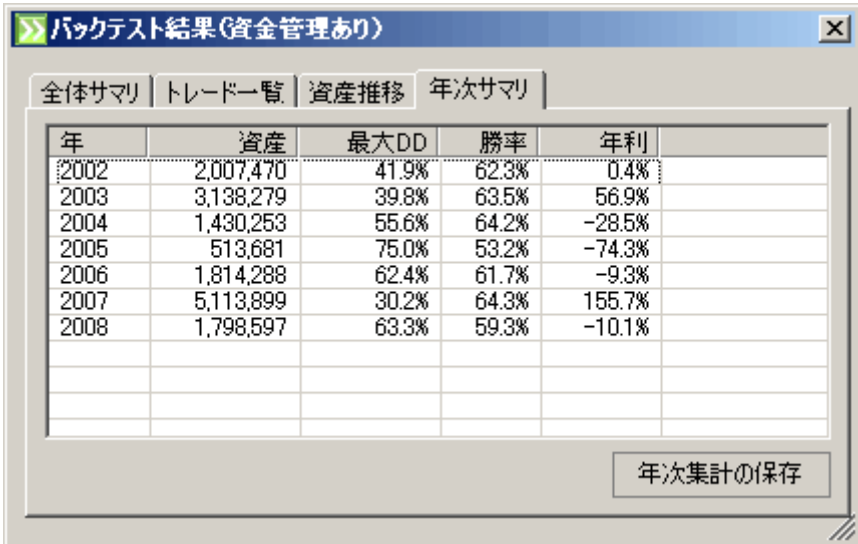
一例として・・・

「典型的な逆張り型の売買ルールに合致した銘柄を、翌日の寄り付きではなく、当日の引けで買って、翌日の寄り付きに売却する。」

というコンセプトで構築した1泊2日型の売買ルールの検証結果を見て頂こうと思います。

まずは、以下の【表1】を見てください。

【表1】



年	資産	最大DD	勝率	年利
2002	2,007,470	41.9%	62.3%	0.4%
2003	3,138,279	39.8%	63.5%	56.9%
2004	1,430,253	55.6%	64.2%	-28.5%
2005	513,681	75.0%	53.2%	-74.3%
2006	1,814,288	62.4%	61.7%	-9.3%
2007	5,113,899	30.2%	64.3%	155.7%
2008	1,798,597	63.3%	59.3%	-10.1%

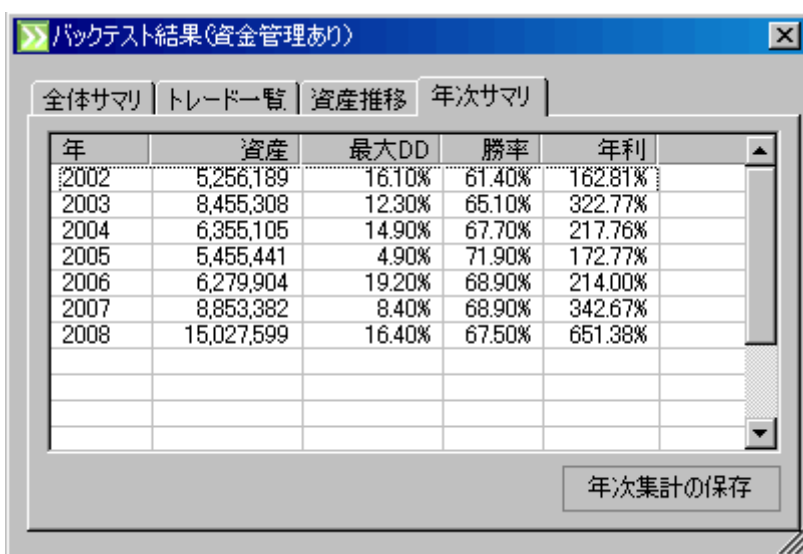
ご覧の通り、気持ち良いぐらいにやられます。

これは何故かというところ・・・

「逆張り型の売買ルールに引っかかるような急落銘柄は、翌日ギャップダウンして寄り付くことが多いから。」に他なりません。

しかし、この売買ルールに、ある2つの条件を入れると、パフォーマンスが激変します。以下の【表2】をご覧ください。

【表2】



年	資産	最大DD	勝率	年利
2002	5,256,189	16.10%	61.40%	162.81%
2003	8,455,308	12.30%	65.10%	322.77%
2004	6,355,105	14.90%	67.70%	217.76%
2005	5,455,441	4.90%	71.90%	172.77%
2006	6,279,904	19.20%	68.90%	214.00%
2007	8,853,382	8.40%	68.90%	342.67%
2008	15,027,599	16.40%	67.50%	651.38%

ご覧の通り、直近6年間で平均年利29.7%と、スイングトレードの常識では考えられない程のリターンをあげることになっています。

ドローダウンが平均して15%程度になっており、やや大きいと感じるかもしれませんが・・・それは、単純にレバレッジを下げれば激減する上に、この売買ルールは含み損を一切抱えることがありませんので、運用上のストレスはかなり少ないです。

つまり、この売買ルールを運用していれば、元手200万円で仮に単利運用していたとしても、毎年600万円、月にして50万円程度の利益を手にする事が出来るということです。

複利運用することで元本が大きくなれば、当然月100万、200万と、利益額は大きくなります。

これだけ大きな利益を、含み損を一切抱えずに、毎日稼ぐことが出来る売買ルールを、あなたが運用するストラテジーの一つとして採用することは、多大なるメリットがあることは明らかです。

大きな利益があがることはもちろん大きなメリットの一つですが・・・

スイングで含み損を抱える局面でも、1泊2日のストラテジーでは、毎日着々と利益が上がっている。

そういった状況が、どれほどトレードを実践する上で、精神的に良い影響をもたらすかは、あなたが少しでもマーケットで自分のお金をリスクにさらしたことがあるなら、お分かりいただけることと思います。

ここまでの話をまとめると、以下の通りです。

- ✓ いかなる相場状況であっても、安定した利益をあげるためには、複数ストラテジーの運用が必要不可欠。
- ✓ 複数ストラテジーの運用にあたっては、単に逆張り、順張りというだけではなく・・・スイングと1泊2日、ロングとショートといったように全く性質のことなる売買ルールを運用することによって、より安定した収益をあげることが出来る
- ✓ この2、3年ほど、NYに影響される度合いが強くなっており、特に的確な1泊2日ストラテジーには、大きな収益がもたらされている。  
これを売買ルールの一つとして採用することは、非常に有益。

では、最後に、さきほどいった“ある2つの条件”とは一体何なのかについてです。

結論から言うと・・・

一つ目は、全体相場判定条件です。

逆張りスイングの売買ルールで、「サイン点灯数50銘柄以上」といった具合に、全体相場

の状況を加味することが重要であるのと同じように・・・

上記で説明したような、超短期売買ルールでも、この全体相場判定条件を勘案することは、この上なく重要です。

ただし、超短期ストラテジーの全体相場判定条件は、スイングで使用するのとは、全く違う発想で活用することが重要です。

### そして、二つ目は、値幅制限です。

これは、アメリカの株式市場をも検証しつくしている私たちだから言えることですが・・・この値幅制限という制度は、日本の株式市場に多大なる影響を与えています。

そして、超短期ストラテジーの運用にあたって、この値幅制限という日本特有の制度を最大限活用することは、運用収益に多大なるプラスの影響をもたらします。

もっといえば、上記のストラテジーは、この値幅制限という制度を、味方につけているからこそ・・・

値幅制限が導入された2002年以降の相場で、常識では考えられないほどの収益を稼ぎ出すことが出来ているということです。

正直なところ、このレポートは無料という形で公開している都合上、これ以上は書けません。というのも、私たちがこの制度の盲点をつき、それを多額の利益にかえていることが広く知れ渡ってしまったら・・・

冗談抜きで、取引所が制度変更するといった対応を考える可能性があるためです。

**ただ一ついえるのは、超短期ストラテジーを運用するうえで、この値幅制限を考慮するのは非常に重要であり・・・**

**活用方法によっては、「値幅制限を大きな収益に結びつけることが可能である。」ということです。**

ちなみこの値幅制限という制度はアメリカには存在しないため、まだ上記のような主張を行っている人間は、私の知る限り日本にはいません。

というのも、日本で紹介される投資ノウハウというのは、基本的にアメリカから輸入されたものでしかないからです。

そして、私たちが検証くんを公開してから1年以上が経っているにもかかわらず、同レベルのソフトが登場していないことを考えれば・・・

この値幅制限を考慮した検証作業を行っている人間は、日本にほとんど存在しないことはあきらかです。

故に、私たちは、1泊2日型のストラテジーがもたらしてくれる利益を、まさに“独占”し続けることが出来ているのです。

今日のレポートには、「なぜ私たちがいかなる相場状況でも、毎年億単位の収益を安定して稼げるのか。」について、最も重要なノウハウを、惜しみなく書いたつもりです。

**あなたが今後システムトレードで利益をあげる上で、とめどなく重要な内容ですので・・・  
あなたが100%理解できるまで、何度も読み返すようにしてください。**

それではまたメールします。

今日もありがとう。

保田望

追伸

今日のレポートを読み、疑問や感想等あれば、メールください。

すべてのメールに返信することは出来ませんが、出来る限りお答えしようと思います。

「厳しい相場環境下だからこそ、有益な情報発信を行う。」

これが、このレポートに込められた私の強い信念です。